

緊急節電に協力しましょう（夏に向けて）

東北関東大震災の発生により、関東地方で電力が不足しています。電力の需要が供給を上回ると、突然の停電を引き起こし、都市機能の大混乱につながるとして、緊急な節電が求められています。オフィス等業務用建物における電力の使用量は、全使用量の25～30%を占めるといわれています。建物設備の運用を管理するファシリティマネジャーは、責任を持つ建物に関し、早急に下記の見直しを行って、電力使用量とピーク電力を削減し、今夏の電力危機乗り切りに貢献しましょう。

1. 空調(冷房)の見直し

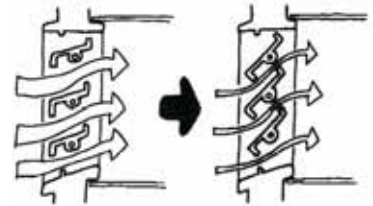
空調(冷房)の運転は、真に必要なか、見直しましょう。窓を開け、扇風機を使い、冷房を使用しないですごしましょう。冷房を使う場合は、設定温度をできるだけ高く(28度)設定しましょう。



「扇風機使用
でエアコン冷房
OFF！」

2. 換気の見直し

空調機械室の外気取り入れ口の弁が、大きく開きすぎていないか、即ち、必要以上の外気を取り入れていないかを見直しましょう。CO₂濃度を規定値(通常1,000PPM)ギリギリになるように換気量を制御することにより、暖房負荷を軽減できます。



「ダンパー閉めて余分な外気はOFF！」

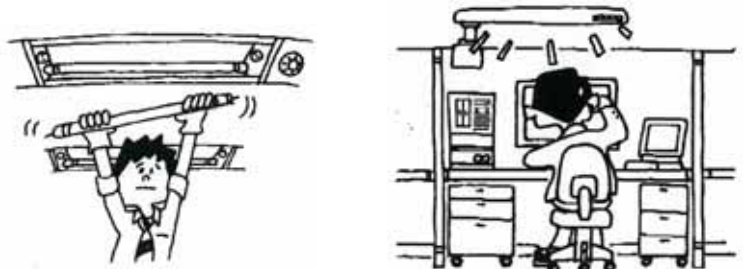
3. 照明の見直し

こまめな消灯を行いましょ。日中は、ブラインドやカーテンを開け、屋外の光で業務を行えないか、試しましょう。昼休み等は、消灯しましょ。



「ブラインド開けて
照明OFF！」

従来のオフィスは、明るすぎるのが殆どです。オフィス天井の蛍光灯ランプを間引くとか、机上だけの局所照明(タスクアンビエント照明)に切り替えるなどを行い、オフィス全体の照明を削減しましょ。



「天井照明間引いて、手元照明に！」

白熱電球は、電気を多く使います。電気使用量の少ない蛍光灯やLEDに切り替えましょう



「白熱電球は電球形蛍光灯かLEDに交換！」

4. パソコン等ICT機器の見直し

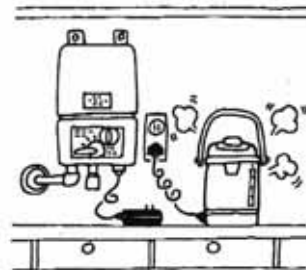
使用しないとき、離席するときはスイッチを切るか省エネ(スリープ)モードに切り替えましょう。帰宅するときにはプラグをコンセントから抜きましょう。また、画面は明るすぎないように調整しましょう。



「使わないときはスイッチOFF！」

5. 温水器の見直し

給湯室にある温水器は、本当に必要か、見直しましょう。温水が必要な時だけ、必要な量をポットやかんで沸かす方式に切り替えましょう。



「飲むときにお湯を沸かす！」

6. 温水便座の見直し

トイレの温水便座は、必要な時だけコンセントにプラグを入れるように見直しましょう。休日など、利用者が少ないときには、プラグを入れる台数を減らすようにしましょう。



「夜間休日はOFF！」

7. 冷蔵庫の見直し

冷蔵庫の設定温度は、「弱」にしましょう。複数の冷蔵庫をもつオフィスでは、真にその台数が必要かどうか、見直しましょう。当面、必要最小限の台数の使用に限定しましょう。



「設定温度は弱に！ 2台目はなくてもOK！」

8. テレビの見直し

休憩時間等に、いわゆる「だらだら見」を慎むようにしましょう。また、画面が明るすぎないか、注意しましょう。複数のテレビのあるオフィスは、使用台数を減らしましょう。



「見ないときはOFF！」

9. 自動販売機の見直し

建物内の自動販売機は、利用が殆ど期待できない、休日、夜間帯は停止するよう、見直しましょう



「需要がないときはOFF！」

10. プラグの見直し

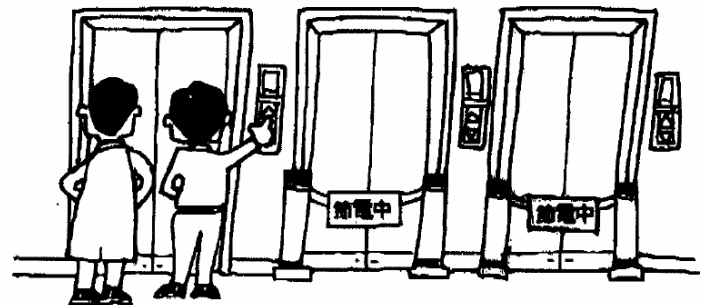
電気器具のプラグは、コンセントに差しおくだけで電気を消費するものもあります。使用していない時間帯は、プラグを抜きましょう。



「プラグは抜いて帰る！」

11. エレベータの見直し

大きな支障のない範囲で、運転するエレベータの台数を減らしましょう。近くの階への移動は、徒歩で行いましょう。



「なるべく歩く！ 台数は最小限に！」